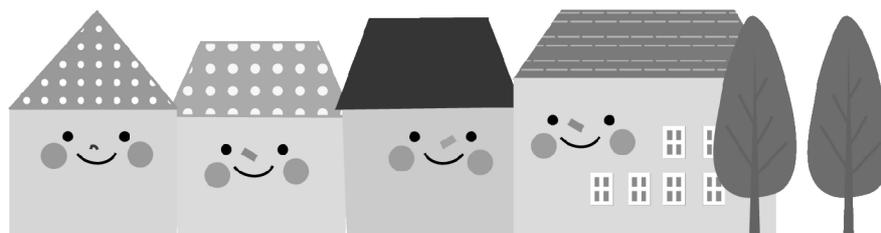


NPO 法人

おかやま入居支援センターだより

第 2 号



ご あ い さ つ

【NPO法人おかやま入居支援センター】は、住居の確保が困難な方の入居を支援することを目的として、法律・医療・福祉・不動産仲介の専門家が中心となって、平成21年3月に設立されました。

関係機関の協力を得て本人を中心としたネットワークを形成し、必要な場合には、条件を整えてから賃貸保証人になるという方法により、入居を支援する活動を行っています。

現在までの約2年間で56件の正式な申込があり、うち36件の支援を行い、29件が入居されました。

精神科医療機関に長期入院していた方、ご高齢の一人暮らしの方、刑務所から出所された高齢者等入居困難を抱えた高齢者・障がい者の入居支援を行っております。

平成21年4月から、高齢者・障がい者の入居支援活動を開始し、平成22年度には21件の申込みがあり、13件の支援を行い、9の方が入居されました。

2年間の活動を通じて、課題が見えてきました。入居された方が安定した生活を送れるように、日中活動の場をもってもらいように関係機関とのネットワークを形成することが重要であることが判明しました。

岡山パブリック法律事務所津山支所の協力をえて、対応可能エリアを広げる取組を始めました。

入居支援は、継続的な活動です。入居支援の輪を広げ、誰もが自由に安心して居住できる地域社会づくりを目指します。取組へのご理解とご協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人おかやま入居支援センター
理事長 井上雅雄

申込内訳(平成22年3月～平成23年2月)

申込者等障がい別内訳

申込者数 21件
 支援決定数 14件
 入居済 9件
 支援終了 2件

※申込者には一つの障がいだけでなく、複数の障がいがある方もおり、それぞれカウントしているために実績数と内訳数が異なっております。

表1 申込者障がい別内訳

	人数
高齢者	6
身体	5
精神	10
発達	1
知的	3
依存症	0
合計	25

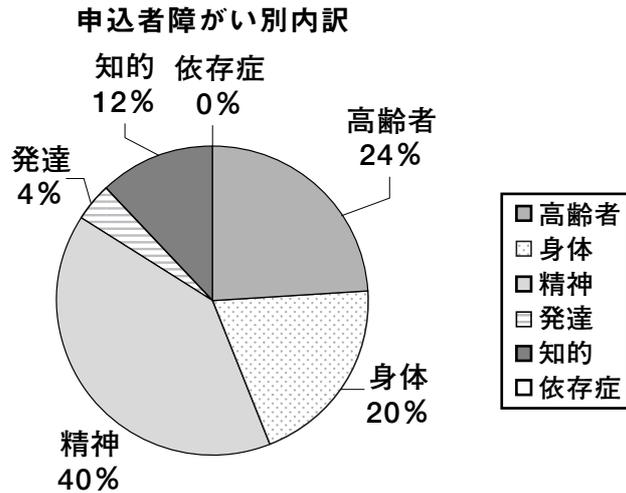


表2 理事会審査状況

	支援決定	保留・取下	不受理
高齢者	3	3	0
身体	2	3	0
精神	7	3	0
発達	1	0	0
知的	3	0	0
依存症	0	0	0
合計	16	9	0

表3 保留者の内訳

	保留状態	取下げ
高齢者	2	1
身体	3	0
精神	2	1
発達	0	0
知的	0	0
依存症	0	0
合計	7	2

理事会審査状況

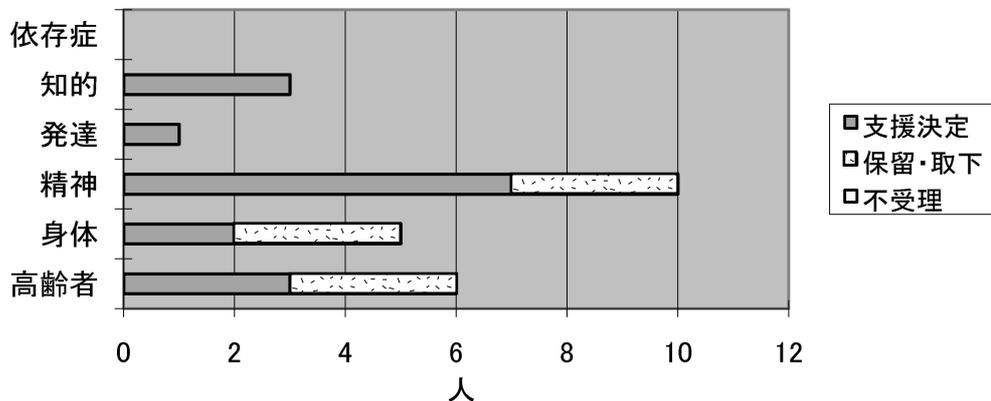


表4 保証支援の内訳

	支援決定	入居済	緊急連絡先	保証人	支援終了
高齢者	3	3	0	2	0
身体	2	2	0	1	0
精神	7	3	0	2	1
発達	1	1	0	1	0
知的	3	2	0	1	1
依存症	0	0	0	0	0
合計	16	11	0	7	2

※緊急連絡先は、民間保証会社の利用ができる場合、当法人が緊急連絡先になることで入居できた例
 ※保証人は、民間保証会社の利用ができない場合、当法人が保証人になることで入居できた例
 ※支援終了は、入居に向け支援は行ったが、ご本人のご都合により支援が中止となった例

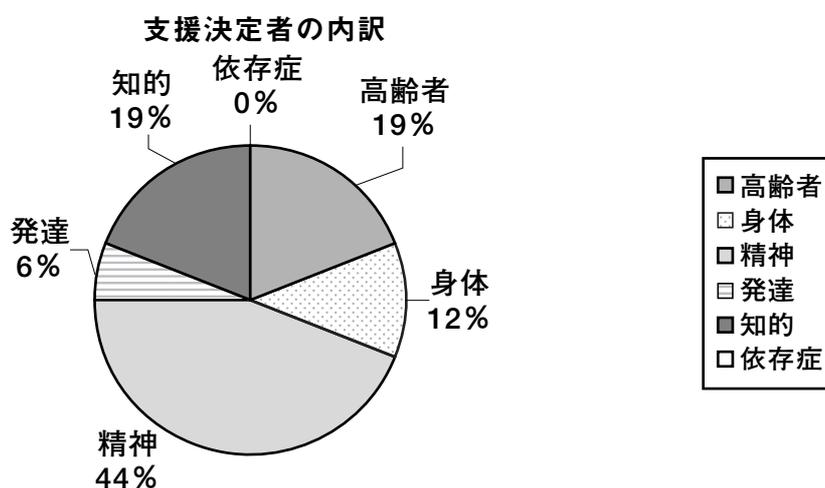
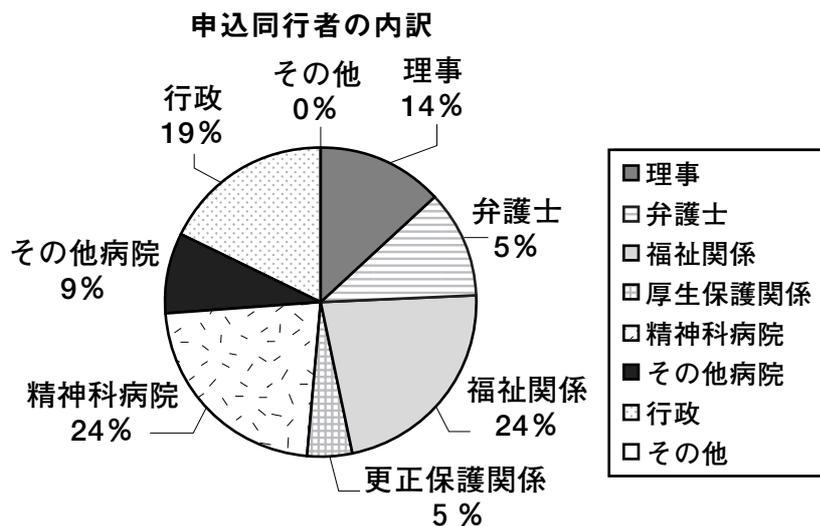


表5 申込同行者の内訳

	人数
理事	3
弁護士	1
福祉関係	5
更生保護関係	1
精神科病院	5
その他病院	2
行政	4
その他	0
合計	21



お正月の炊き出し報告

昨年、12月29日から1月3日までの6日間寒いからと、ひとりで部屋にこもっていたので体調を崩し、入院された方が何人かいらっしゃいました。

私達にとってたった6日間と思っていたのですが、一人で過ごす144時間はとても長い時間で、ましてや一人で過ごされる方が大半というのが現実の話です。

お休みの、中日の3日目(大みそか)4日目(お正月)に、少しでも話しができれば、無事に乗り越えられるのではないかと考え、年越し蕎麦と、お雑煮の炊き出しをしました。

入居者の方々と話をしてみると、お雑煮を何年も食べてない方がとても多く、今までには、カップラーメンやカップうどんに、お餅を載せてお雑煮の気分を味わっていた方が大半でした。

私は、年越し蕎麦やお雑煮を食べることが当たり前と、思っていたのでとてもショックでした。

なかには、咽喉が詰まるからと、白玉団子でお雑煮の気分を味わっていらっしゃった方もおられました。

「死ぬまでに、お雑煮が食べたい。」そう言って部屋に入られた入居者の方の言葉が頭から離れず、私が、勝手に炊き出しを行う事にしました。

家族で炊き出しなんてしたこともなかったけれど、入居支援センターのみなさんをはじめ、精神科医療センター、けんかれん、弁護士事務所、その他たくさんの方の有志の方が、ご参加くださり2日で180食召し上がっていただきました。もちをのどに詰まらせては？との配慮から、小さく切ったり、救急対応のできる方が、お越しく下さいました。

召し上がられた方に、名前をいただいていたので、部屋から、出てこられなかった方に、連絡を取り、お部屋にお伺いしてみると、風邪で寝込んでいた方や熱でご飯を食べられなかった方、血圧が高くなって困っていた方、体調を崩されていた方を見つけることができました。

大事にならなくてよかったと今は思っています。

ご参加くださった皆様、あらためてお礼を申し上げます。m(__)m

おかやま入居支援センター
理事 阪井ひとみ

参加者の声

Hさん：僕は、お雑煮を作るお手伝いをしました。みんなが、美味しいと言ってくれたから、嬉しかった。いつもみんなに助けられていたので、なんだか今日は、嬉しかったです。

Fさん：めっちゃ楽しかった。こんなにみんなと遊んだのは久しぶりでした。おばちゃんまたやって！！

Mさん：作るお手伝いをしていたらたくさんの人と友達になれました。とてもうれしかった。いつも怖そうなおじさんと思っていたけど、優しかった。

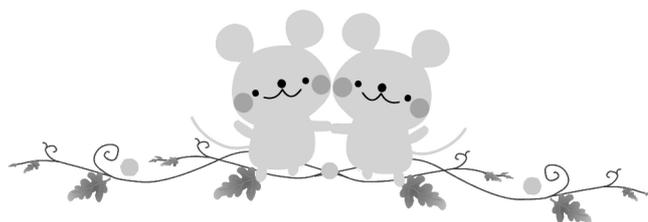
Sさん：美味しかった。みんなで食べたから、とてもうれしかった。困った時は、弁護士の先生が相談をなさいと言ってくれた。僕の話、聞いてくれると約束してくれた。

Yさん：病院のYさんが来てくれた。病院の知つとる人がおったからなんか安心した。正月に病気にならんかと心配しよ一た。

Iさん：僕のへんの四国の雑煮は、あんこがはいとるんじゃ。今度は、あんこの雑煮が食べたい。昔お母ちゃんが作ってくれたんじゃ。もう、お母ちゃんはおらんけど、家に帰りてえ……。

Nさん：病院の人と、正月は会わんじゃろう。じゃから、すげー不安になるんじゃ。今日来てくれたから、なんか嬉しかった。私ら一のこと、考えてくれよ一とおも一たら、ぼっけえ嬉しかった。

※コメントをそのまま活字にしております。



～3年目に向けて～

おかやま入居支援センターも設立後2年が経ち、活動も軌道に乗ってまいりました。多くの方に当法人の活動を知っていただき、支援を必要とされている方やその周囲におられる方など、様々な方より問い合わせのお電話を数々いただいております。また、当法人の活動に賛同してくださった方々から多大なご協力も賜りました。ありがとうございました。

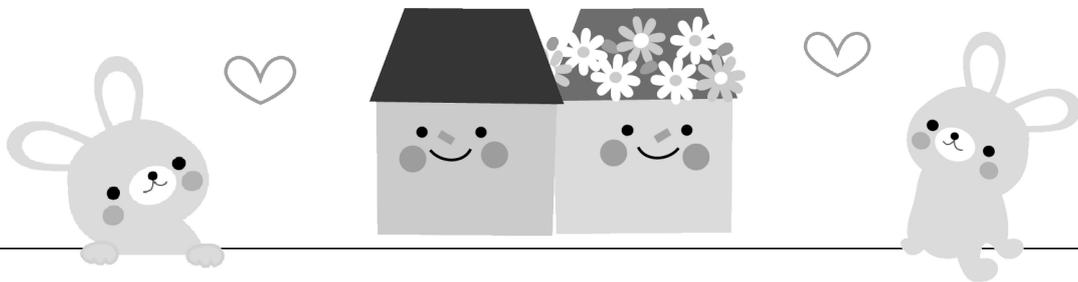
当法人の名前も広まり、活動が活発になっていく一方で、問題点や現時点での支援の限界という壁も明らかになりました。

今後はこの壁を越えるべく支援対象や対応可能エリアの拡大を図り、支援の輪を広げていければと、考えております。

たくさんの方々のご指導やご協力を得て、一步一步ではありますが、より広くよりよい支援ができるよう成長していきたいと思っております。

22年度もたくさんのお出会いや発見があり、皆様との縁を感じる1年となりました。3年目、4年目と活動を続けていくことで皆様との縁を広く、深くしていきたいと思っております。

皆様、これからもおかやま入居支援センターをよろしく願いいたします。



発行：特定非営利活動法人 おかやま入居支援センター
〒700-0923 岡山市北区大元駅前1-1-1
TEL：(086) 221-0530 FAX：050-3488-4739